

◎今週の御言葉「罪人を救うために来られたキリスト」(サムエル記第一16章1～13節、テモテへの手紙第一1章12～17節)

「エッサイは人をやって、彼を連れて来させた。その子は血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱだった。主は仰せられた。『さあ、この者に油を注げ。この者がそれだ。』」(16:12) 「『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。」(1:15)

◎サムエル記第一16章は、イスラエルの初代の王サウルが失脚したため、神様はサムエルにベツレヘムに行き、次の王になるべき人に油を注ぐように命じられたのです。その際、エッサイの長男から紹介されたのですが、「人はうわべを見るが、主は心を見る」と語られ、羊の番をしているエッサイの末子ダビデが連れてこられ、「さあ、この者に油をそそげ。この者がそれだ」とのみ声を聞き、油を注いだのです。

◎テモテはルステラで生まれ、ギリシヤ人を父とし、祖母ロイス、母ユニケはユダヤ人で、熱心な信者でした(使徒16:1, II テモテ1:5)。テモテは、パウロの第1回伝道旅行の際に信仰に入り、第2回伝道旅行の際にルステラで割礼を受け、パウロの同労者とされました(使徒16:1-3)。テモテは、パウロから「信仰による真実のわが子」と呼ばれ、病弱な(5:23)テモテのために「あわれみ」を祈っています(①1:2, ②1:2)。

◎パウロは自分のことを「罪人のかしら」と告白しております(1:15)。確かにパウロは、サウロと呼ばれた時代にダマスコ途上にて復活の主に出会うまでは、「神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした」(13)。しかし、「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」故に、神様の「あわれみ」を受け(15)、罪許され、強められ、福音を証しし、伝える務めに任じられ、忠実な者と認められたのです(12)。そして「イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしよう」としてくださったのです(16)。神様は「迫害者サウロ」を「福音の使者パウロ」として生まれ変わらせ、用いて下さった御方です。神様は「どのような人も救われるのだ」との見本としてパウロを選ばれたのです。私たちも同じ神様の恵みに与っていることを感謝しましょう。主イエス・キリスト様の十字架の恵みはすべての人にも提供されているのです。証をしよう。